

Crescendo

M E D I K I T A R T S C E N T E R くれっしえんど

Vol.111



チェコ・フィルハーモニー管弦楽団



田上バル『報われません、勝つまでは』(2009年)



ウィーンに愛された作曲家たち

宮崎県立芸術劇場の20年
チェコ・フィルハーモニー管弦楽団
えんげき・とれたて新鮮市
ウィーンに愛された作曲家たち

メディキット 県民文化センター

公益財団法人 宮崎県立芸術劇場

MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER

宮崎県立芸術劇場の20年

ボヘミアの作曲家スメタナの交響詩「わが祖国」から「モルダウ」。落成したばかりのコンサートホールに、祖国の大河に思いを寄せる哀愁の旋律が、ブラハ交響楽団の演奏で流れます。

平成5年11月22日、当時の松形知事をはじめ宮崎県立芸術劇場の建設にたずさわった多くの人たちが、感激に胸をつまらせながら聞き入っていました。

ともすれば文化的におくれがちだった宮崎にとって、宮崎県立芸術劇場の誕生は悲願ともいべきものでした。ウィーンの楽友協会ホールをモデルにして、一足飛びに最高のステージをという願いが見事に成就した瞬間でした。

私が生まれ育った頃には、日本の多くの地方都市がそうであったように、宮崎にはコンサートホールも劇場もなく、本格的なオーケストラの演奏も聴いたことがありませんでした。初代館長としてのスピーチを指名されて、宮崎出身の若者たちは都会に出て情報産業や創造的職業などにつく時、大きなハンディキャップを感じるなど自分の体験をもとに語り、宮崎県立芸術劇場が新時代にふさわしい価値観や美意識を生み出し、宮崎の未来に変革をもたらしますようにと抱負を述べさせていただきました。

しかし、国際交流や芸術文化の蓄積も少ない宮崎で、この高度な文化施設を有効に運営することは、それほど容易なことではありませんでした。そこで、N響以来の相談相手だった徳永二男さんの発案に基づい

て、カーネギーホールの館長であるアイザック・スターンさんを招いて、国際レベルのホール運営を学ぶために「宮崎国際音楽祭」を創設することになりました。

しかし、カーネギーホールの館長職のほかに、ニューヨークやエルサレムのマスタークラスで後進の育成に奔走するスターンさんに、宮崎に来る余裕はありませんでした。ほとんど絶望的と思われた半年後、突然連絡があって宮崎国際音楽祭を引き受けてくれることになりました。スターンさんは、クラシック音楽の未来を託す若い才能を、アジアにも求めることを思いついたのです。

スターンさんには平成8年から13年までの6年間、亡くなるまで宮崎国際音楽祭の初代音楽監督として宮崎に通っていただきました。しかし、スターンさんの関心は、日本や宮崎を超えて広くアジア一円に向いていました。国内をはじめ北京や上海、ソウルの音楽大学から優秀生を集めてマスタークラスを開講すると、宮崎県立芸術劇場には英語、中国語、韓国語が飛び交い、劇場の国際化は一気に進むことになりました。

スターンさんが平成13年に亡くなったあとも、アシュケナージ、ズーカーマン、デュトワなどの巨匠たちに引き継がれて、宮崎国際音楽祭はその知名度をアジアからヨーロッパ、アメリカへとさらに広げ続けました。

世界には名門オーケストラが120ほどあるといわれますが、アイザックスターンホールの音響が高く評価されて、この20年間に30回に近い名門

オーケストラの演奏会が開催されています。

平成23年3月、第16回音楽祭直前に「東日本大震災」に遭遇したときにも、徳永二男監督の采配のもとにピンカス・ズーカーマンやライナー・キュヒルさんなど、内外の巨匠たちの積極的な支援を得て見事に乗り切ることが出来ました。

宮崎県立芸術劇場の利用者は、今年の1月に500万人を突破、この秋には開館から20年の成人式を迎えます。11月2日の開館20周年記念演奏会には、奇しくもブラハ交響楽団と同郷で先輩格となるチェコ・フィルハーモニー管弦楽団が出演します。チェコ・フィルは、ドヴォルザークやマーラーが深く関わり、「ブラハの春」を演出した名門中の名門オーケストラです。

公益財団法人宮崎県立芸術劇場理事長 青木 賢児



アイザック・スターン氏と一緒に
(最後の来宮となった2001年の第6回宮崎国際音楽祭にて)

エピソードで振り返る

文：青木賢児

Episode 1 「ホールの品定め」

ホールは、もう一つの楽器といわれるほど、演奏の成果に深くかかわっています。皆さんも、エコーのきいたカラオケ店を探したり、「風呂場で歌えばブ口の歌手」などと考えたりすると思います。

演奏者にとっても、コンサートホールは「もう一つの楽器」といわれるほど大切で、ホールのアコースティック（残響）によって演奏の成果は大きく違ってきます。林学者でもあった当時の松形知事は、自ら綾の深い森に分け入って県産材を切り出し、コンサートホールを造ったと聞きました。

現代を代表する名指揮者の一人、ズービン・メータさんは、数年前にアメリカのテレビに出演して「世界のホール」の品定めをして話題になりました。世界でアコースティックが一番いいのはスペインの「サラゴサ市民ホール」、日本では東京の「サントリーホール」と札幌の「キタラホール」と、南の島にある虫眼鏡で見ないとわからないほど小さな町の「アイザックスターンホール」だと語りました。南の島は九州のこと、虫眼鏡の町は宮崎のことです。

メータさんが音楽監督をつとめるイスラエルフィルハーモニー管弦楽団は、今までに2度も宮崎にやってきて、超一流の演奏を聞かせてくれました。メータさんはまた来たいと、アイザックスターンホールにぞっこんです。



アイザックスターンホール
Isaac Stern Hall

Episode 2 「子どものための音楽会」

宮崎には170校ほどの小学校があり、6年生の数は1万2千人ほどになります。宮崎国際音楽祭では教育プログラムとして「子どものための音楽会」を企画して、毎年ホール座席数の1800人の6年生を招待してきました。（第16回宮崎国際音楽祭からは、午前・午後の2回公演）

ともすれば文化から置き去りにされがちな子どもたちに、学校の体育館ではなく、設備の整ったホールで一流の演奏を鑑賞してもらうことはとても貴重な体験になると考えたからです。これまでにアイザック・スターンをはじめ、ピンカス・ズーカーマンなど多くの巨匠たちが「子どものための音楽会」に出演して、演奏とともにそれぞれの音楽人生を聞かせてくれました。

ショパン・コンクール優勝のキャリアを持つベトナム出身のピアニスト、ダン・タイ・ソンさんは、ベトナム戦争が激しくなったとき、ピアノを水牛の背中にくりつけ疎開したこと。地下壕で弾いていたピアノがネズミにかじられて演奏できなくなり、大きな紙に鍵盤を書いて練習したことなどを話してくれました。弾いた曲はメンデルスゾーンの無言歌集から「海辺にて」。子どもたちの感想文には、感動があふれていました。



第6回宮崎国際音楽祭「子どものための音楽会」

Concert for children

Episode 3 「音楽祭世代」

今から8年前の「第10回宮崎国際音楽祭」は、記憶に残る素晴らしい音楽祭でした。その時の音楽監督はシャルル・デュトワ、ハイライトはストラヴィンスキーの傑作とされるバレエ音楽、「春の祭典」、「火の鳥」、「ペトルーシュカ」の3部作でした。そのとき、演奏する音楽祭管弦楽団の中に、宮崎出身のファゴット奏者・黒木綾子さんがいました。

黒木さんは16才のときに、劇場でデュトワ指揮のモントリオール交響楽団演奏会で「ペトルーシュカ」を聴き、ファゴットに憧れて東京藝術大学に進学、卒業すると東京フィルハーモニー交響楽団の首席ファゴット奏者になりました。

宮崎で「ペトルーシュカ」に出会ってから10年後、黒木さんは偶然にも第10回宮崎国際音楽祭にファゴット奏者として出演することになり、子供の時に客席で聴いた「ペトルーシュカ」を、今度はステージの上で同じデュトワの指揮で演奏していたのです。黒木さんは、それは言葉に表せないほどの感動的な体験だったと語っています。

宮崎には芸術劇場で音楽を聞いて育ち、素晴らしい演奏家になった「音楽祭世代」が何人もいます。彼らは宮崎が目指した、未来そのものです。



第10回宮崎国際音楽祭

Music festival generation

海外オーケストラ公演で振り返る

- 1993年 11月22日 ブラハ交響楽団
- 12月16日 ベルリンドイツ交響楽団
- 1994年 6月30日 ニューヨーク・フィルハーモニック
- 10月16日 バーミンガム市交響楽団
- 1995年 4月 8日 モントリオール交響楽団
- 10月26日 フランクフルト放送交響楽団
- 1996年 6月23日 モントリオール交響楽団
- 10月15日 レニングラード・フィルハーモニー交響楽団
- 1997年 11月11日 イスラエルフィルハーモニー管弦楽団
- 1998年 2月 1日 ドレスデン国立歌劇場管弦楽団
- 9月11日 スカラ・フィルハーモニー管弦楽団
- 12月12日 キーロフ歌劇場管弦楽団
- 1999年 7月 2日 モントリオール交響楽団
- 2000年 11月14日 ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
- 2001年 7月25日 フィルハーモニア管弦楽団
- 11月10日 バリ管弦楽団
- 2002年 11月 9日 ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団
- 2003年 10月 7日 ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団
- 2004年 11月27日 シュトゥットガルト放送交響楽団
- 2005年 11月18日 チェコ・フィルハーモニー管弦楽団
- 2006年 10月 3日 マーラー・チェンバー・オーケストラ
- 2007年 3月25日 イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団
- 2008年 12月10日 ロンドン交響楽団
- 2009年 10月30日 ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団
- 2010年 11月 7日 ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
- 2011年 11月24日 バリ管弦楽団



ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団（2000年11月14日）

歴史と伝統あるオーケストラが 奏でる珠玉の音色が、 アイザックスターンホールに響く！

宮崎県立芸術劇場の開館20周年記念公演「チェコ・フィルハーモニー管弦楽団」が、11月2日(土)に開催されます。2005年に来宮して以来、8年ぶりとなる人気オーケストラ！今回はどんな響きを聴かせてくれるのか。公演を前にチェコ・フィルハーモニー管弦楽団の世界へご案内します。

ラトビア国立交響楽団、プラハ放送交響楽団、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団・・・と伝統あるオーケストラが名を連ねる東欧諸国。その中でも、伝統はもちろん、東欧随一の實力と人気を誇る名門オーケストラが、チェコ・フィルです。

チェコ・フィル誕生物語

チェコ・フィルは、東西南北のヨーロッパ文化が融合し、数々の歴史的な建造物を有するチェコの首都・世界遺産都市「プラハ」を拠点として、1881年にプラハ国民劇場付属のオーケストラとして開設されました。その活動は、1896年に交響曲「新世界より」で有名なあのドヴォルザークによる指揮、そしてプログラムは、全て「ドヴォルザーク」という豪華な第1回演奏会に始まりました(これまでにチェコ・フィルを指揮した音楽家は、このほかマーラー、ラフマニノフ、グリーグ、イザイ、サラサーテなど豪華なメンバーがずらりと並びます)。

当時のチェコは独立の動きが高まっていた時期ではありましたが、その時はまだドイツの影響も強く、国境近くには多くのドイツ人が住んでいました。そんな中、チェコの独立運動に好意的だった内閣は、ドイツ系住民の反発を受けて総辞職に追い込まれます。1901年、その総辞職に抗議・ストライキしたプラハ国民劇場のオーケストラの楽団員の多くは解雇され、結果的にコンサート専門のオーケストラとして独立しました。

歴代の指揮者たち

チェコ・フィルを語る上で欠かせないのが、歴代の常任指揮者の存在です。その中でも特に大きな役割を担った指揮者を紹介します。

まず、1919年に首席指揮者に就任したヴァーツラフ・ターリッヒ(1919ー1941)は、「チェコ・フィルの育ての親」といわれ、国際水準にまで實力を引き上げました。亡くなる数年前にも再びチェコ・フィルを指揮し、「彼らに教えることは何もない。彼らは私を超えた」と涙を流しながら話した。というエピソードも。

ターリッヒが退任後、後を継いだのはラファエル・クーベリック(1942



イルジー・ピエロフラーヴェク
(首席指揮者)

プラハ生まれ。1972年から1978年までブルノ国立フィルの指揮者を務め、その後、プラハ交響楽団の首席指揮者、チェコ・フィルの常任指揮者を歴任。1990年チェコ・フィルの首席指揮者に任命される。1994年にプラハ・フィルハーモニアを創立して音楽監督となり、2005年に桂冠指揮者となる。1995年にはBBC交響楽団の客演指揮者となり、2006年に同響の首席指揮者に任命された。これまでに、ベルリン・フィル、ボストン響等世界の主要なオーケストラを指揮している。2012年からチェコ・フィルの首席指揮者に復帰。



イザベル・ファウスト
(ヴァイオリン)

1993年バガニーニ国際ヴァイオリン・コンクールに優勝し、一躍世界的に注目される。1997年、バルトークのソナタのデビュー録音で、グラモフォン賞「ヤング・アーティスト・オブ・ザ・イヤー」を受賞する。これまでに、ベルリン・フィル、ロンドン・フィル、バイエルン放送、バリ管、ミュンヘン・フィル、ベルリン放送などと共演。また、アバド、ヤンソンス、ハーディング、デュワ、メニューイン、ギーレン、ベルティニ、ヤノフスキなどの一流指揮者と共演している。使用楽器は、ストラディヴァリウス「スリーピング・ビューティ」(1704年製)。

ー1948)です。ナチスの占領下の苦しい時代を乗り越え、チェコスロヴァキアが解放された1945年、チェコ・フィルは国立のオーケストラとなりました。クーベリックはその翌年、創立50周年記念「プラハの春音楽祭*」の創設に尽力します。音楽祭のオープニングには、スメタナの「わが祖国」を演奏しました。しかし、チェコの共産化に反対したクーベリックはイギリスに亡命します。

その後、カレル・アンチェル(1950ー1968)が就任。1933年にプラハ交響楽団の音楽監督になったアンチェルでしたが、ユダヤ系であった為、強制収容所に送られ、家族全員がアウシュビッツで虐殺されます。悲しい過去があるアンチェルですが、1950年にチェコ・フィルの首席指揮者に就任。クーベリック亡命後、低迷していたチェコ・フィルを見事に立て直しました。しかし、彼もまた亡命してしまうのです。

この危機を救ったのがヴァーツラフ・ノイマン(1968ー1989)。1964年からライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ライプツィヒ歌劇場の音楽監督を務めていましたが、1968年に自由化政策「プラハの春」が起こると、その地位をすべて捨て祖国に戻ります。そしてチェコ・フィルの首席指揮者に就任。約20年間、数々のツアーやレコーディングを通じて国際的な名声を更に高めました。ノイマンは後に名誉指揮者となり、次に就任したのが、今回来宮するイルジー・ピエロフラーヴェクです。

チェコ・フィルとピエロフラーヴェク

ピエロフラーヴェクは、戦後生まれのチェコ人で、優秀な指揮者の一人。1990年、44歳の時にチェコ・フィルの首席指揮者に就任しま

した。しかし、その後チェコ・スロヴァキアの民主化の流れをうけて、楽団員による民主的な投票が行われたことによって、これまでのチェコ出身の指揮者ではなく、初の外国人となる、ドイツの巨匠ゲルト・アルブレヒトの就任が決定、ピエロフラーヴェクは辞任することになりました。辛い経験をばねに、彼は国内でのプラハ国民劇場の指揮者をはじめ、国外においてはBBC交響楽団やロンドン交響楽団、日本にも来演するなど活動を増やし、世界的巨匠となった彼は、2012年チェコ・フィルの首席指揮者に返り咲きました。

お国もの以外のプログラムで魅了する

約20年振りにピエロフラーヴェクとタッグを組んだチェコ・フィルは、今回どのような演奏を聴かせてくれるのでしょうか。チェコ・フィルといえば、何と言ってもドヴォルザークやスメタナらの「お国もの」の演奏で、前回来宮した際も、祖国の音楽を自然と心に入ってくるような自分たちの音楽へと引き込むような演奏で聴衆を魅了させました。

今回は、「お国もの」以外のプログラム。しかし、チェコ・フィルはベートーヴェンやブラームスといったレパートリーにも定評があり、優美で落ち着いた音色の弦楽器と、中欧ヨーロッパらしい素朴な音が魅力的でバランスのとれた豊かな管楽器が折り合う響きは、世界にファンが多い理由でもあります。自然にオーケストラに呼吸を与え、自然体のなかにも端正な音楽を作り、聴衆に安定的な説得力をもたらす円熟期のピエロフラーヴェクとの音楽、そしてチェコの響きは、きっと私たちの印象に残る演奏を聴かせてくれることでしょう。

TOPIC

日本とチェコ・フィル

2011年3月、来日公演を行っていたチェコ・フィルは、3月11日の震災を目の当たりにしました。この日の大阪公演を含め13日まで公演を行いましたが、予定ホールの使用ができなくなり、またチェコ政府の意向を受け帰国しました。惨状を目の当たりにした楽員たちは、日本を助けるために何かできないかという強い意志により、自国でチャリティ・コンサートを開催。コンサートの模様はテレビ等で中継され、義援金を募るなど国を挙げての支援活動となりました。

ARTIST NAVI

ヴァイオリン界の女流スター イザベル・ファウスト

皆さんは、女性ヴァイオリニストといえば誰を思い出しますか?大御所から若手までたくさんのヴァイオリニストが活躍するなか、忘れてはいけないのが、今回のソリスト「イザベル・ファウスト」。彼女は、今最も注目されているヴァイオリン界の女流スターです。

1987年、わずか15歳にしてレオポルド・モーツァルト・コンクールで優勝し、ソリストとしてのキャリアをスタートさせました。2007年にリリースしたベートーヴェンの2大ヴァイオリン協奏曲には、彼女のピリオド奏法(18世紀ごろに作曲された当時の演奏技法)に対する情熱が巧みに表れています。今回演奏するのは、その2大名曲の1つ、「ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.61」。彼女が使用している1704年製のストラディヴァリウス「スリーピング・ビューティ」から奏でられる音色と、真っ直ぐに音楽と向き合った彼女ならではの演奏をお楽しみください。

公演情報 20周年記念公演

チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

11月2日(土) 開場15:15 開演16:00

【出演者】イルジー・ピエロフラーヴェク(指揮)

イザベル・ファウスト(ヴァイオリン)

【曲 目】格林カ:歌劇「ルスランとリュドミラ」より 序曲

ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.61

ブラームス:交響曲第1番 ハ短調 op.68

【会 場】アイザックスターンホール(コンサートホール)

【入場料】SS席14,000円[会員12,600円] S席11,500円[会員10,300円]

A席 8,000円[会員 7,200円] B席 5,500円[会員 4,900円]

C席 3,000円[会員 2,700円] D席 2,000円[会員 1,800円]

学割(小学生~大学生)1,500円 ※C席のみ

高校生会員 1,000円 ※C席・D席のみ

* プラハの春音楽祭

ミニ解説

チェコの首都プラハで開催されるこの音楽祭は、毎年5月12日にスタート。この日は祖国を代表するスメタナの命日で、スメタナ作曲のモルダウを含む連作交響詩「わが祖国」が必ず演奏されます。この音楽祭には、忘れられないコンサートが…。音楽祭創設に尽力した巨匠ラファエル・クーベリックが、亡命してから42年ぶりに祖国に戻り、1990年「プラハの春音楽祭」のオープニングでスメタナの「わが祖国」を指揮。42年ぶりにチェコ・フィルの指揮台に立ったクーベリックの姿、演奏に会場は感動に包まれました。この日の演奏は、日本でもFM各局で放送され大きな話題を呼びました。



2013 10/13・14

えんげき・とれたて新鮮市

開館20周年を迎える今年、演劇・ダンス部門では新しい企画が動き出しました。その名も『えんげき・とれたて新鮮市』。県内の30歳未満の演劇に携わる若者とともに、劇場がつくり上げる「交流」と「実験」の新しい演劇フェスティバルです。

この「えんげき・とれたて新鮮市」では、宮崎県内の若手演劇人による短編作品集と、全国を舞台に活動をする新進気鋭の若手団体の作品をそれぞれ1日1ステージ、2日間に渡って上演します。1年目の今年は県内で活動する若手3団体、「Vaga8onds (バガボンズ)」、「田原工業高校」、「富む平原」がお送りする短編作品集『まる、いす #1』と、熊本県出身の主宰・田上豊さん率いる東京を拠点に活動をする田上パルの『報われません、勝つまでは』を迎えます。

短編作品集『まる、いす #1』produced by みやざき演劇若手の会

短編作品集『まる、いす #1』では、宮崎で演劇に携わる若者たちが3本の短編作品を上演します。この作品をプロデュースするのは『みやざき演劇若手の会』という宮崎の30歳未満の若手演劇人によるグループです。宮崎の演劇を宮崎の人に観てもらい、演劇の地産地消を目指して今回のキャスト・スタッフはすべて宮崎の人材で上演に臨みます。

3つの短編を「作品集」として仕上げるために、彼らが決めたことは「囲み舞台に、椅子ひとつ」という舞台セットです。『まる、いす』というタイトルはこの客席が周りをぐるりと取り囲む舞台に、椅子がひとつという舞台セットを表したことであり、各作品共通のテーマでもあります。3人の演出家が「まる」あるいは「まるい」、そして「いす」という言葉に対するイメージを、三者三様それぞれの作品で描き出します。

この「まる、いす」に挑むのは「Vaga8onds (バガボンズ)」の伊藤海、「田原工業高校」の田原遥海、そして、みやざき演劇若手の会の代表を務める「富む平原」の片山敦郎、の3人の演出家です。それぞれの劇団や演劇ユニットを主宰して宮崎で活動しており、活動を始めて数年たった団体もあれば、今年立ち上がったばかりのユニットもあります。しかし共通して、ここ宮崎で演劇と向き合っています。何か動き出していることを彼らの作品を見ることで感じていただけののではないのでしょうか。

「まる、いす」からイメージするものは??

演出の3人に、「まる、いす」の言葉から何をイメージしたか聞いてみました。

円満

伊東海 (演出)
Vaga8onds
『Tic Tac』

実家以外の行ったことのない、よく知らない部屋

田原遥海 (作・演出)
田原工業高校
『服を着てくれ』

家庭の風景

片山敦郎 (作・演出)
富む平原
『雨天決行』

公演情報 えんげき・とれたて新鮮市

短編作品集『まる、いす #1』produced by みやざき演劇若手の会
宮崎の若手演劇人によるオムニバス3作品 (上演時間 各20分程度)

10月13日(日) 開場14:00 開演14:30

10月14日(月・祝) 開場16:30 開演17:00

・Vaga8onds 『Tic Tac』 【作】斎藤建郎 【演出】伊藤海

・田原工業高校 『服を着てくれ』 【作・演出】田原遥海

・富む平原 『雨天決行』 【作・演出】片山敦郎

【会 場】 イベントホール (全席自由)

【入場料】 一般 1,500円 【会員 1,300円】 学割 (小学生~大学生) 1,000円

※2作品セット券3,000円 『まる、いす』『報われません、勝つまでは』の2作品を両方ご覧いただけます。

田上パル(東京)『報われません、勝つまでは』

田上パルが上演するのは、劇団の「処女作であり、代表作」である『報われません、勝つまでは』です。この作品は、「熊本弁体育会系青春群像劇」とチラシにも銘打たれているとおり、まさに「体育会系」です。

舞台となるのは、インターハイ予選決勝で大敗した熊本の名門ハンドボール部の部室。試合会場から戻ってきた選手(生徒)たちが顧問の指示で始めたミーティングは、次第にケンカの様相をおびてきます。汗と怒声が飛び交い、激しいバトルが繰り広げられます。しかし、ただ単に荒々しいのではありません。そこには、体育会系男子の青春(「熱さ」と「苦さ」と「もどかしさ」)が凝縮されているのです。

この作品が初演されたのは、2006年2月。場所は、田上豊さんの母校である桜美林大学(東京都町田市)の演劇スタジオ。体育館の片隅を改築して作られたスタジオでした。田上さんの「大学卒業の思い出のため」に行われたこの公演は、20代前半の俳優陣による圧倒的な熱量が評判を呼び、同年中に東京都内と北九州市で再演するツアー公演が行われます。そして、このツアー公演がきっかけとなって「田上パル」は劇団化されました。

『報われません、勝つまでは』宮崎公演では、田上さんの「若さや勢いの力で上演した初演から時間がたち、年齢を重ねからこそ出せる奥ゆきを表現していきたい」という意向を反映して、宮崎出身の日高啓介さんら30代、40代の俳優もキャストイングされています。ただし、高校生という役の設定はそのままです。

きっと田上パルと『報われません、勝つまでは』は全力をあげて、真剣勝負でやってきます。それが体育会系の彼らの礼儀だからです。



田上パル『報われません、勝つまでは』(2006年)

田上パル(東京)『報われません、勝つまでは』

10月13日(日) 開場16:30 開演17:00

10月14日(月・祝) 開場14:00 開演14:30

【作・演出】 田上豊

【出演者】 二宮未来(田上パル)、石松太一(青年団)、高麗哲也、土田祐太、

日高啓介(FUKAIPRODUCE羽衣)、安村典久、吉川賦志、

緒方和也(Studio Life)

【会 場】 演劇ホール 舞台上舞台

【入場料】 一般 2,000円 【会員 1,800円】 学割 (小学生~大学生) 1,000円

藤木大地のCanterbire

Daichi Fujiki

声楽という分野において、女声のソプラノやアルト、男声のテノールやバスに比べて、“男が女のような声で歌う”カウンターテナーは、稀少で、ミラクルで、神秘的で、一方であの映画の強烈な印象もあり、日本では長い間“もののけ姫”のイメージをも持たれてきたのではないだろうか。

紙面の都合で、歴史的な背景についてはグーグル先生たちにお任せするとして、実は欧米の音楽シーンではいま、カウンターテナーはアツイのである。理由としては、カウンターテナーの主なレパートリーであるバロック・オペラの上演が流行しているということが挙げられる。

カウンターテナー歌手の中には、普段の話し声が歌声と同じくらい高いひとも半分くらいいる。ぼくの話し声はフツーに男なので、歌うときには裏声にかえて歌う。

ぼくがテノール時代から歌唱技術的に大きくかえたのはその点くらいで、ブレスのコントロールとか、体の支えやスペースのこととか、音楽的なこととか、あとは基本的にはなにも変えていないのだ。

だから「転向に勇気がいったでしょう」とよく言われるのだけど、ぼくとしては、“自分が持つ声のポテンシャルを最大限に生かす方法”が、カウンターテナーであることを

確信できたので、あとは直感を信じて前に進むだけだったのです。

なにしろ音楽史の中の大部分で忘れ去られていた声種なので、需要はまだまだ小さい。加えて欧米にはすでに大活躍しているアツいカウンターテナーがいっぱいいるので、そこに新たに食い込んでいくのも大変だし、“カウンターテナー=もののけ姫”だと長年思ってきた日本のマーケットを開拓していくのもやっぱり大変。

というわけで、考え方をチェンジ。

まず、“世界的に稀少で貴重な奇跡の歌声”というステレオタイプなキャッチコピーにカウンターパンチ。ぼくは稀少価値を披露するためではなく、両親からもらった“ぼく”という楽器を磨きあげて、みんなに音楽を伝えるために歌っているのだから。

公演情報 フレッシュアーティスト・リサイタル #1

藤木大地(カウンターテナー)

9月8日(日) 開場15:30 開演16:00

【曲 目】 山田耕作:この道 武満徹:小さな空 ほか

【会 場】 アイザックスターンホール(コンサートホール)

【入場料】 全席自由 一般 2,000円 【会員 1,800円】 学割 (小学生~大学生) 1,000円

※平成25年度イベントカレンダー記載内容から、開場・開演時間が変更となっております。あらかじめご了承ください。



藤木 大地

2012年、第81回日本音楽コンクール第1位。カウンターテナーとして史上初の優勝者となり、注目を集めた。国際コンクールでの受賞、海外の主要オペラハウスへの出演など、国際的に高く評価されている。宮崎市出身、ウィーン在住。

凱旋公演

シリーズ

〈大人のためのコンサート~なるほどクラシック講座〉

vol.2 ウィーンに愛された作曲家たち

シリーズ〈大人のためのコンサート~なるほどクラシック講座〉好奇心をくすぐるお話しと、心地よい音楽に包まれる大人のための新しいレクチャーコンサートシリーズ「なるクラ」。桐原直子氏による作曲家や時代背景・楽器など分かりやすい解説と共に、素敵な演奏をお楽しみいただきます。

知るは変化、変化は冒険

昨年の宮崎、三股そして東京で大好評だった「ピアノ没後20年」のコンサート。それに続く、第2回「大人のためのコンサート~なるほどクラシック講座」は、音楽の都ウィーンが舞台です。

中世から20世紀初頭までのウィーンは、ヨーロッパ随一の名門バプスブルク家が、政治・経済の中心でした。芸術をこよなく愛したハプスブルク家の下には、当然、多くの芸術家が集まり、人類の宝というべき芸術・文化の花が咲きほこりました。

今回は「ウィーンに愛された作曲家たち」と題し、ウィーンを中心に活躍した作曲家の名曲をセレクトしてお届けします。

さて、今回出演する3名の演奏家をご紹介します。ヴァイオリニストの白井圭さんは、数々のコンクールに入賞し、ウィーンフィルのメンバーの経験もある名ヴァイオリニストです。学生時代から、テクニクだけではなく心を音に表現するその評判は高く、彼と共演したいというプロの演奏家は後を絶ちません。

そして、その彼と学生時代からお互いに切磋琢磨し、音楽に対して真摯で誠実な演奏で知られるピアニスト野田清隆さん。久々のお2人の息の合った共演は必聴です。

宮崎からは、ヨーロッパで数々の舞台を踏み説得力ある歌声を聴かせる大人ソプラノ、後藤智美さんが登場します。

プログラムは、ウィーンといえばおなじみのモーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトの作品に加え、宮崎で演奏されることは珍しいツェムリンスキーの歌曲や、皆さんの心を揺さぶる名曲、R.シュトラウスのヴァイオリンソナタなど、魅力的な曲目をご用意しています。

「シューベルトがいた当時のウィーンの人口は30万から40万人だった?」「何故、ウィーンにはカフェが多いのか?」などのお話を交え、偉大な音楽家達が生まれた時代に思いを馳せながら、他では聴けない宮崎発のプログラムをお楽しみください!

たくさんの方々の皆さまのお越しをお待ちしています。



桐原直子

公益財団法人
宮崎県立芸術劇場
音楽事業アドバイザー

公演情報 シリーズ〈大人のためのコンサート~なるほどクラシック講座〉

vol.2 ウィーンに愛された作曲家たち

●ランチタイム・コンサート ~60分の気軽な音楽時間

10月23日(水) 開場11:00 開演11:30

【入場料】 全席自由 一般 1,000円 学割なし

●ソフレ・コンサート ~じっくり楽しむ100分

10月23日(水) 開場18:30 開演19:00 ※ランチタイムコンサートより演奏曲目が増えます

【入場料】 全席自由

一般 2,000円 【会員 1,800円】 学割 (小学生~大学生) 1,000円

※2公演ともに、開演前に出演者によるプレトークを行います。

【出演者】 白井圭(ヴァイオリン)、野田清隆(ピアノ)、後藤智美(ソプラノ・日向市在住)
桐原直子(ご案内)／宮崎県立芸術劇場音楽事業アドバイザー【曲 目】 W.A.モーツァルト:ルイーズが不実な恋人の手紙を焼いたとき
F.シューベルト:ます、ヴァイオリン・ソナタ イ長調 D574 ほか

【会 場】 イベントホール

7月・9月発売

メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)
自主事業公演チケット情報

10月6日(日) 開場13:30 開演14:00 チケット発売中

アイザック・スターンホール

無声映画とパイプオルガンのコラボレーションが、
ふたたび実現!!今年はチャップリンをはじめとする世界三大喜劇王がパイプオルガンと競演!
この贅沢な組み合わせ、ぜひこの機会にお楽しみください。

シネマ×パイプオルガン

全席指定 一般1,800円(会員1,500円)
中～大学生1,200円 小学生800円

11月23日(土) 10:30～18:00 (予定) 会員発売 9/1(日) 一般発売 9/8(日)

20年分のありがとう! 開館日フェスタ

いつもの劇場がお祭り空間に大変身!

コンサート アイザック・スターンホール

開場10:30 開演11:00

家族でコンサート!

パイプオルガン・ブロマード・コンサートvol.140

0歳からのパイプオルガン

「オルガンのハッピーバースデー」

出演:早川幸子(オルガニスト)

全席自由 3歳以下無料 4歳以上500円

なかよしチケット(4歳以上～大人までの2人1組)500円

コンサート 演劇ホール

15:30開場 16:00開演

プラスの祭典

出演:県内のブラス

全席自由 一般1,000円 学割500円

演劇 イベントホール

13:00開場 13:30開演

わたしのいちばんうれしい日

原作:宮崎県民

構成・演出:永山智行

出演:劇団ゼロQ+宮崎で活躍する俳優等

全席自由 一般1,000円 学割500円

その他、楽しいイベントを盛りだくさん予定しています。
イベントの詳細は、決まり次第順次発表していきますのでどうぞお楽しみに!

Attention (ご注意)

・学割の対象は、小学生～大学生です。・未就学児の入場はご遠慮ください(0歳からのパイプオルガンを除く)・当日券が出る場合は500円増し(学割を除く)になります。
・記載情報は変更になる場合があります。・上部枠内の10月23日(水)公演分については、平成25年度イベントカレンダーの記載内容から会場が変更となっています。

9月8日(日) 開場15:30 開演16:00

アイザック・スターンホール

フレッシュアーティスト・リサイタル#1

藤木大地(カウンターテナー)

全席自由 入場料:一般2,000円(会員1,800円) 学割1,000円

9月15日(日) 開場13:30 開演14:00

演劇ホール

雅楽～神話の国で聴く悠久の調べ

全席指定 入場料:S席3,000円(会員2,700円) A席2,000円(会員1,800円)

学割(A席のみ)1,000円

9月24日(火) 開場18:15 開演19:00

アイザック・スターンホール

オーケストラアンサンブル金沢 宮崎公演

全席指定 入場料:SS席9,000円(会員8,100円) S席7,000円(会員6,300円)

A席5,000円(会員4,500円) B席3,000円(会員2,700円)

学割(B席のみ)1,500円

9月28日(土) 開場18:30 開演19:00

イベントホール

'13みやざきの舞台芸術シリーズI

Classic×Jazz=!?～21世紀は彼の時代!カブスチン!～

全席自由 入場料:一般2,000円(会員1,800円) 学割1,000円

えんげきとれたて新鮮市

10月13日(日) イベントホール 開場14:30 演劇ホール 開場17:00

演劇ホール

「まる、いす#1」

全席自由 入場料:一般1,500円(会員1,300円) 学割1,000円

演劇ホール 舞台上舞台

10月14日(月・祝) 開場14:30 演劇ホール 開場14:30 イベントホール 開場17:00

演劇ホール

田上パル「報われません、勝つまでは」

全席自由 入場料:一般2,000円(会員1,800円) 学割1,000円

10月23日(水) イベントホール

シリーズ(大人のためのコンサート～なるほどクラシック講座)Vol.2

ウィーンに愛された作曲家たち

ランチタイム・コンサート～60分の気軽な音楽時間～

全席自由 入場料:一般1,000円(会員800円) 学割なし

10月23日(水) イベントホール

ソワレ・コンサート～じっくり楽しむ100分～

全席自由 入場料:一般2,000円(会員1,800円) 学割1,000円

11月2日(日) 開場15:15 開演16:00

アイザック・スターンホール

チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

全席指定 入場料:SS席14,000円(会員12,600円) S席11,500円(会員10,300円)

A席8,000円(会員7,200円) B席5,500円(会員4,900円)

C席3,000円(会員2,700円) D席2,000円(会員1,800円)

学割(C席のみ)1,500円 高校生会員1,000円(C席・D席のみ)

11月20日(水) 開場13:30 夜の部 開場18:00

演劇ホール

松竹大歌舞伎

全席指定 入場料:S席7,000円(会員6,300円) A席5,000円(会員4,500円)

B席3,000円(会員2,700円) 学割(B席のみ)1,500円

12月7日(土) 開場13:30 開演14:00

アイザック・スターンホール

プレミアム・セレクト・コンサート#2

ヴァイオリンを聴く～前橋汀子の世界

全席指定 入場料:一般3,000円(会員2,700円) 学割1,500円

12月15日(日) 開場10:30 開演11:00

アイザック・スターンホール

パイプオルガン ブロマード・コンサート Vol.141

オルガンdeブランチ 作曲家シリーズ ニコラウス・ブルーンス 出演:松居直美

全席自由 入場料:小学生以上500円 親子チケット500円(小学生とその保護者の2人1組)

高校生会員制度 H25年8月スタート!

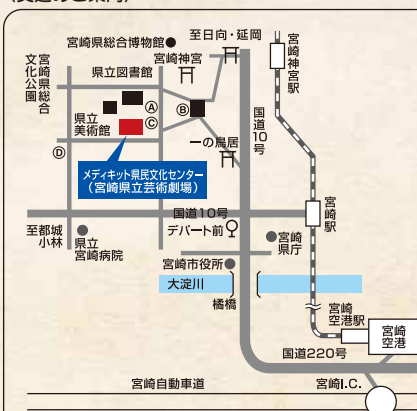
～ 高校生の皆さまのたくさんのご入会をお待ちしています ～

〈対象者〉宮崎県に居住する高校生、又はそれに準じる方
※一般発売日(窓口のみ)より、会員本人様のみご利用可。〈会員期限〉高校を卒業する年の3月末まで。
進級時の更新手続きは不要です。〈特典内容〉①会費無料
②3,000円(前売価格)以下のチケットに限り
1枚1,000円で購入できます。※公演毎に設定
③当日券(全席種)を半額で購入できます。

高校生会員「愛称」大募集中! 募集期間は9月30日まで!

入会・愛称募集の詳細はホームページをご覧ください。

〈交通のご案内〉



●宮崎交通バス(橋通方面から)

- ①[文化公園]行き 終点「文化公園」下車→徒歩1分
 ②[宮崎神宮]行き 終点「宮崎神宮」下車→徒歩5分
 ③[国富・綾]「平和ヶ丘」または「古賀総合病院」行き
 「文化公園前」下車→徒歩1分
 ④[平和台]行き 「霧島3丁目」下車→徒歩4分

●JR日豊本線

- ・「宮崎駅」から:タクシー約10分
 ・「宮崎神宮駅」から:タクシー約5分・徒歩約20分

メディキット県民文化センターは、
専用の駐車場はありません。
お越しの際は公共交通機関をご利用ください。

お問合せ

宮崎県立芸術劇場
MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER〒880-8557 宮崎市船塚3-210 http://www.medikit-ac.jp/
TEL.0985-28-3208 FAX.0985-20-6670